

中条中学校 学校運営協議会だより ～コミュニティ・スクールの充実 を目指して～ 令和7年9月

9月19日（金）に令和7年度第2回中条中学校学校運営協議会が開催されました。第1回に引き続き、第2回目も、生徒の代表も一緒に参加し、熟議を行いました。生徒会総務の生徒が代表です。

今回の熟議のテーマは以下のようなものです。

意見交換のテーマ

体育祭（地域種目）を振り返って
学校行事における地域との関わり方



このテーマは、第1回学校運営協議会で話題に上がった、体育祭での地域交流種目の総括について、生徒会の取組を紹介してもらったからの熟議となりました。さらに、学校行事に限らず、学校と地域がどう関わっていけばよいかについて、より具体的な内容の話し合いを行いました。

各グループで話し合われた内容をお知らせします。今後、いただいたご意見を校内で検討し、生かしていきたいと考えます。

【体育祭（地域交流種目）の振り返り】

参加する地域の方を中学生が連れてくるのはよかった。そこで交流が生まれていた。



放送設備（スピーカー）の向きが悪く、説明がよく伝わっていなかった。

昨年度の反省が生かされ、待ち時間が格段に減り、スムーズな運営だった。



参加の仕方が複雑すぎて、わからずに玉を持ち帰った人もいたようだ。

参加賞のティッシュボックス、生徒の手書きメッセージが好評だった。

生徒が地域の方を迎えに行くことで、対面での交流が増えたが、ルールが難しく戸惑っている様子も見られた

参加賞のティッシュのメッセージがうれしくて、もったいなくて使えない。景品を形として残せるものにしてはどうか。（キーホルダー等）



【地域と中学生の関りについて】

地域（地区）行事であるが、中条地区、大井田地区関係なく参加できるとよい

時間のない中ではあるが、地域行事に企画の段階から、中学生が関われるものがあるのもよいのではないかな。

地域の行事（特にじょうもん市）に中学生がスタッフとして協力することで、子どもたちも参加しやすいと思う。



中学生の参加が固定化している。来年度は、早い段階に中学生からも案がほしい。ボランティアに来てもらった人に、地域から特典があっても良いかもしれない。

体育祭のアナウンスのように、じょうもん市等で進行のアナウンスを中学生にしてみたら親しみやすさがあると思う。

雪像づくりも地域の方と一緒にできないか。一緒に作ることが無理でも、事前にレクチャーをしてみたら可能ではないかな。



地域行事に参加することで、普段関りのない人から認められたり、褒められたりして自己有用感が高めることができる。



学校運営協議会を終えて、委員さんや生徒の振り返りより（抜粋）

- ◎生徒との熟議が、話のキャッチボール（熟議）、提言としての整理、今後の活動に活かすという流れができてきたと感じた。
- ◎この熟議の場での話がしっかりと形になり、地域と学校が関わる機会が非常に増えたと感じている。その分、学校（生徒）の負担が増えていないか心配している。
- ◎テーマを絞った方が良かったと感じた。自己有用感という大きなテーマでの話し合いで内容が絞れなかった。
- ◎地域の活動に、どれだけ中学生を参加させて良いのか中学生の気持ちを聞いてみたい。学校としての参加というよりも、地域の一員として参加する方法もよいのではないかな。
- ☆地域と中学生がどのように関わっていけるのかをしっかりと話し合えてよかった。
- ☆地域と交流できる機会が増えつつあるという実感があつた。
- ☆今回の話し合いで、今までにない考え等が出てきて、話し合いの中身が深まってきていると感じた。



今回の感想や振り返りから、学校運営協議会が、ただ地域と生徒との交流だけでなく、それぞれが「地域」「学校」をテーマに、さらに一歩進んだ熟議の場となっていくという期待を感じることができました。今後、さらによりよい活動に進化していく可能性を感じた学校運営協議会となりました。